

平成29年度第1回高知県入札・契約監視委員会 議事概要

開催日時	平成29年8月25日（金）午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	高知県高知市丸ノ内二丁目1-10 高知城ホール2階 中会議室
出席委員	池 委 員 稲 田 委 員 近 藤 委 員 村 瀬 委 員 山 本 委 員 渡 邊 委 員
次 第	<p>1 開会</p> <p>土木部長挨拶</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 入札・契約制度の運用状況について</p> <p>(2) 抽出事案の審議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南小川河川災害復旧工事</li> <li>・後川（第二放水路）地震高潮対策工事</li> <li>・県道高知本山線防災・安全交付金工事</li> <li>・県道土佐清水宿毛線防災・安全交付金工事</li> <li>・下田港改修（地方）工事</li> <li>・土佐西南大規模公園（大方地区）体育館屋根改修工事</li> </ul> <p>3 その他</p> <p>(1) 次回開催について</p> <p>(2) 抽出委員選定について</p> <p>4 閉会</p>

〈抽出事案の審議〉

意見・質問	回答
<p><b>南小川河川災害復旧工事について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急工事と本工事の受注業者に関連はあるか。</li> <li>・ 一般的に応急工事を行ったものは事情が分かっているから本工事の積算が立てやすい等の関連もないか。</li> <li>・ 工事費内訳書の記載方法について業者にさらに理解を求める必要がある。</li> <li>・ 入札の結果はほぼ意図した結果だったのか。</li> <li>・ 入札参加者が少ないと落札率も高くなるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急工事を受注することで本工事の受注に有利に働くことはない。応急工事は地元業者が受注することが多いが、応急工事、本工事、各々で入札要件を満たす者が受注するため、応急工事と本復旧は必ずしも受注者が同じとなるものではない。</li> <li>・ 現在の事業者の積算能力は高くなっているが、応急工事を行ったことが本工事の積算において有利に働くことはない。</li> <li>・ 早めに行うべき工事であったが、用地買収に時間がかかったため、発注が遅くなり、11月の入札となった。 発注が遅くなると受注者は手持ちができるため入札参加者が少なくなると予想していた。</li> <li>・ 入札参加者が多いケースで落札率が低いケースは多いが、1者入札でも落札率が90%を割ることもあり、入札参加者数と落札率は必ずしも関係するものではない。</li> </ul>
<p><b>後川（第二放水路）地震高潮対策工事について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回目に中止になった際の発注は改浜田川（第1放水路）と後川（第2放水路）は併せて発注していたのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中止となった1回目の発注では後川（第2放水路）のみの「とび・土工」で発注していた。 2回目は「とび・土工」の発注での落札が難しいと判断し、改浜田川（第1放水路）と併せて「土木一式」で発注した。</li> </ul>
<p><b>県道高知本山線防災・安全交付金工事について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合評価の評価項目は固定化されたものか。工事ごとに項目が違うのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必須項目と選択項目があり、必須項目はどの工事にも採用するが、選択項目については工事施工の規模、場所、工種に応じて評価項目を決定している。</li> </ul>

<p>・総合評価の評価項目は公表しているか。</p> <p><b>県道土佐清水宿毛線防災・安全交付金工事について</b></p> <p>・入札に参加した業者の積算の適用が間違っており失格が出たということだが、そういうことは防ぎにくいのか。</p> <p>・積算根拠を誤り、同じ価格で失格となるのは積算の能力が高いのではなく、官積算を推測することが上手くなっただけではないか。</p> <p>・使用する資材についてメーカーも指定されるのか。</p> <p>・最低制限価格を下回る入札をした入札業者が、実際に工事すると、入札した価格での工事の施工は難しいということか。</p> <p><b>下田港改修（地方）工事について</b></p> <p>（特になし）</p> <p><b>土佐西南大規模公園（大方地区）体育館屋根改修工事について</b></p> <p>・総合評価方式により落札額が他の入札額と逆転し、落札されているが、現在の総合評価方式による落札は適切と言えるのか。</p> <p><b>その他</b></p> <p>・現在の入札方式の課題がみられる。 現在の標準的な積算が新しいリスクを業者に与えているのではないか。今回の県道土佐清水宿毛線防災・安全交付金工</p>	<p>・総合評価を行う入札で採用する項目は公告で示しており、その評価点数についても公表している。</p> <p>・競争性の高いものは、落札のためにどうしても調査基準価格を狙う必要がある。その際、予定価格を推測するために官積算を研究する。その過程で積算根拠を見誤り多くが失格となった。施工業者の積算技術は高くなっている。</p> <p>・性能さえ有していればどのメーカーの資材を使ってもいいが、落札のためには官積算に近づける必要がある。また、現在は積算資料を広く公開しており、官積算を推測しやすくなっている。</p> <p>・そのとおり。</p> <p>・落札者は実績からみても工事をやるうえで能力には問題はない。</p> <p>・我々も問題意識を持っている。官積算の段階での誤りは落札決定の取消等となり着工が遅れるため、積算について過剰に注力している。また、受注業者は落札</p>
---	--

<p>事の案件では同価格での失格が多数となり、本来、落札できる価格以上の価格で落札されている。こうしたことを減らしてしていくために新しい仕組みを考える必要があるのではないか。</p> <p>・標準的な分析と調査により、案件毎に予定価格を作成することで、入札価格を実行予算に基づくものできないか。 また、マネジメントや技術等で勝負できるような入札形態を模索できないか。</p>	<p>のため多くの開示請求を行い、官積算の研究に注力している。 積算に過剰に労力をかけることを回避するため、見積で積算しているものについて一定公表していくことを検討していくことも考えている。</p>
---	---

<次回開催について>

- ・平成30年2月実施を予定し、詳細は今後協議することです承された。

<抽出委員選定について>

- ・従来からの50音順による選定により、山本委員を抽出委員とすることとし、了承された。